

## 添付資料 第2章 関係

### 文化芸術創造都市事業の推進に関する自治体アンケートの調査について

#### 目的

本アンケートは「平成27年度・文化芸術創造都市事業の推進に関する自治体アンケート」（以下、平成27年調査）の簡易版であり、創造都市ネットワーク日本の今年度における効果を把握すること、また自治体における文化プログラムの取組状況を把握することを目的に実施した。

#### 対象

調査対象は、平成28年12月末時点で創造都市ネットワーク日本（以下、CCNJ）に参加している86自治体（広域自治体を含む）を対象とした。

#### 実施時期と方法

平成29年1月10日から2月1日までの間に、電子メールと郵便による調査票の送付と回収を行った。

#### 実施主体

文化庁の平成28年度文化芸術創造都市事業の中で、受託事業者である一般社団法人ノオトが行った。

#### 回収状況

計86自治体に配布し、69自治体から有効回答があり、有効回答率は80.2%となった。これを都道府県、政令市、中核市、さらに市・区・町・村を人口規模10万人以上と未満に分けると表1のようになる。

（表1）自治体の種類別アンケート回収状況

自治体区分	送付数	有効回答数・率		全体に占める比率
都道府県	10(8)	8(6)	80.0%(75.0%)	11.6%(15.6%)
政令市・中核市	25(20)	22(13)	88.0%(65.0%)	31.9%(31.3%)
市・区（人口10万人以上）	21(16)	19(11)	90.5%(68.8%)	27.5%(31.3%)
市・町・村（人口10万人未満）	30(20)	20(13)	66.7%(65.0%)	29.0%(21.9%)
全体	86(64)	69(43)	80.2%(67.2%)	100.0%

( )…昨年実績

### 設問ごとの集計結果

#### 1. 創造都市事業の推進体制について

##### (1) 自治体名（記述式）

（省略）

##### (2) 文化芸術創造都市事業を主管する行政部署

文化芸術創造都市（以下、創造都市）事業を主管する部署は、昨年度と数値が変わらず文化事業部門が最も多い65%であった。その比率は自治体の規模が大きくなるほど、比率が高い。また、企画部門に加え、教育委員会が主管する比率が高くなる。

（表2）担当部署の行政部門（記述式）

	総数	企画部門		文化事業部門		教育委員会		NA
都道府県	8	2	25.0%	6	75.0%	0	0.0%	0
政令市・中核市	22	3	13.6%	19	86.4%	0	0.0%	0
普通市・区（10万人以上）	19	6	31.6%	12	63.2%	1	5.3%	0
普通市・町（10万人未満）	20	7	35.0%	8	40.0%	5	25.0%	0
全体	69	18	26.1%	45	65.2%	6	8.7%	0

#### 2. 取組内容について

##### (3) 文化イベントにおいてCCNJのロゴを使用したイベント（記述式）

域内における公立文化芸術施設または公的団体が主催共催している文化イベントの件数について記述してもらったが、平成27年度の創造都市ネットワーク会議（総会）において、協議されてから周知が充分でないためか、CCNJが主催に名前を連ねたイベントを除くと、回答数は2件にとどまった。

(表3) ロゴを使用したイベント (記述式)

自治体名	イベント名/期間/主催者
新潟市	シンポジウム「誰もが参加できるオリンピック・パラリンピック文化プログラム～地域・アート・共生～」
篠山市	丹波焼陶器まつり 2016年10月15-16日 丹波陶磁器協働組合・篠山市 丹波焼陶器まつり 2015年10月17-18日 丹波陶磁器協働組合・篠山市

### 3. 2020年に向けた文化関係の取組意向について

#### (4) 2020年に向けた文化プログラム等の取組意向 (記述式)

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に焦点を合わせた文化プログラムについて取組意向を記述してもらった。6割以上が具体的な計画を基に実施に向けて検討を進めており、2割以上が検討を予定、もしくは実施したいと考えていると回答した。結果は(表5)に設問(5)と合わせて一覧を掲示している。

#### (5) 現在決まっているイベント (記述式)

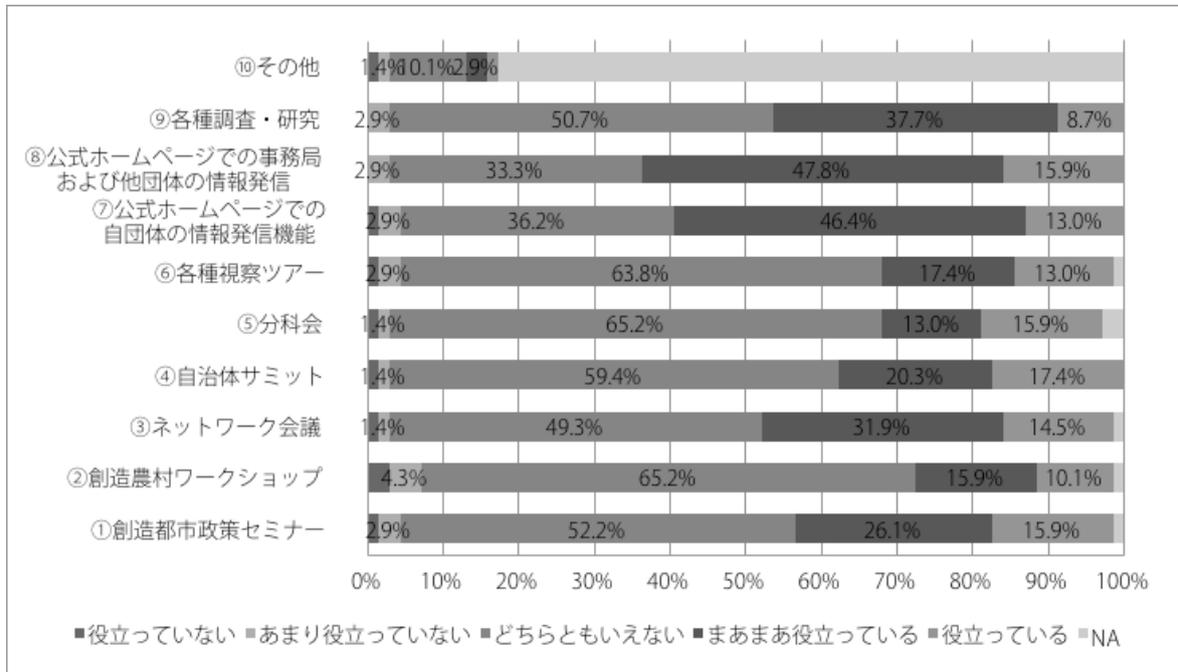
約半数が実施を予定しているイベント名を挙げ、1割程度が調整中、実施に向けた検討を行なっていると回答。4割が未定、予定なしと回答した。設問(4)と合わせて一覧を掲示している。

### 4. 創造都市ネットワーク日本 (CCNJ) について

#### (6) CCNJの事業の中で特に役立っているもの (選択式・複数)

CCNJが行っている事業の中で、特に自らの自治体に役立っていると思うものについて、5段階で評価してもらった。(図1参照)平成27年調査に引き続き、「役立っている」の単独、及び「役立っている」+「まあまあ役立っている」の合計値のいずれにおいても1位は、「⑧公式ホームページでの事務局および他団体の情報発信」であった。2位は「⑦公式ホームページでの自団体の情報発信機能」であり、情報収集及び情報発信のプラットフォームとして、CCNJ公式ホームページが機能し、活用されていることがうかがわれる。

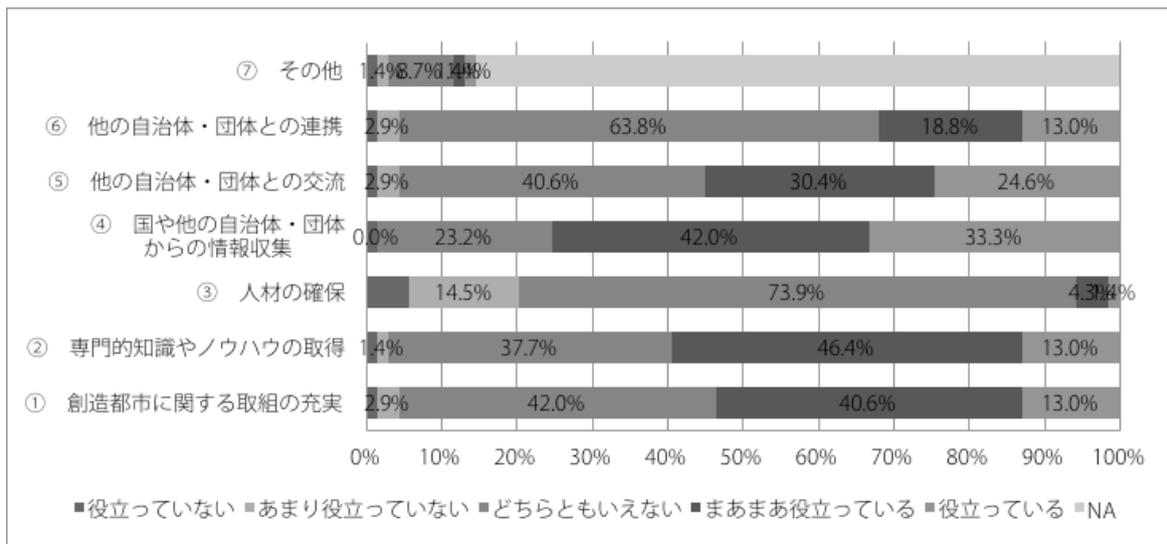
①から⑥までの各種セミナー、会議、視察等については、「どちらとも言えない」が過半数を上回っており平成27年度調査より顕著である。これには自治体数の増加に伴って、参加自体ができていない団体も増えていることが想定される。今後の改善点として、各種セミナーに参加できない団体にもホームページを活用するなどの形で情報を提供していくこと、また(8)や各種セミナー、会議後のアンケートにおいて回答された要望や期待することを考慮し、加盟団体にとってより役立つ企画運営が求められると言える。



(図1) CCNJの取組の中で特に役に立っているもの (単数)

(7) 上記の取組が、貴自治体でどの程度役立ったか（選択式・複数）

また、上記の取組が自治体において、どのような側面においてどの程度効果を発揮しているかについても5段階で評価してもらった。(図2参照)「役立っている」+「まあまあ役立っている」の合計値で、「④国や他の自治体・団体からの情報収集」75.3%で1位、「②専門的知識やノウハウの取得」59.4%、「⑤他の自治体・団体との交流」55%。「①創造都市に関する取組の充実」53.6%の順となった。以上の項目は概ね評価されているが、「⑤他の自治体・団体との交流」から比べると「⑥他の自治体・団体との連携」は23%も数値が下がり、交流・情報交換などの場にとどまり、連携の仕組みづくりに課題が見受けられる。また「③人材の確保について」は非常に低い数値となっている。CCNJは自治体以外にも、各地の経済団体、NPO、大学・教育機関等の団体、個人をもって構成されている。今年度も加盟団体数は増えており、多種多様なネットワークであることの利点を活かした、連携・ネットワークを強化していく必要があると考えられる。



(図2) CCNJの取組が、自団体においてどの程度役立っているか（単数）

## (8) 今後 CCNJ の枠組みで行いたい取組や期待すること等 (記述式)

CCNJ の枠組みで行いたい取組や実現したい仕組み、CCNJ に期待することを記述してもらい、それを自治体の種類別に一覧化した (表 4 参照)。ただし表現は、原文を尊重しつつ、編集している。

(表 4) 今後 CCNJ の枠組みで行いたい取組や期待すること等

都道府県
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ CCNJ の枠組みを通じた 2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の文化プログラムの情報共有、連携実施などの取組の実現。</li> <li>・ 他の自治体との文化芸術事業についての情報共有。</li> </ul>
政令市・中核市
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国際的な創造都市との連携・交流にも期待。</li> <li>・ 今以上に、加盟団体相互の情報共有や情報交換の場となることを期待。</li> <li>・ 国内外の都市間連携・交流をさらに促進すると同時に、各地域が取組む文化プログラムや文化資源の発掘・磨き上げを支援できるネットワークの仕組みづくりを今後も期待。</li> <li>・ 引き続き、国内の創造都市が繋がりがあ、情報を交換できるネットワークであることを期待。</li> <li>・ 2020 年に向けて、全国的な文化取り組みについて主導的な役割を担っていただき、全国の自治体が参加しやすいよう、国等との窓口となっていただきたい。</li> <li>・ 助成金等の情報提供や申請書類の作成指導。</li> <li>・ CCNJ のネットワークを活かした、加盟団体間での連携強化と事業展開。</li> <li>・ 創造都市全般に関する情報と、UCCN についての情報提供に期待。</li> <li>・ CCNJ ホームページにおける、国の動きや、各自治体の好事例等の掲載。</li> </ul>
市・区 (人口 10 万人以上)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 文化プログラムの実施について、共有させていただきたい。</li> <li>・ 本市で開催予定のイベントについて、CCNJ の枠組みを通して、ぜひ PR、集客、他市とのコラボレーションを行っていききたい。</li> <li>・ 文化庁予算が他省庁と比較し、予算配分が低いので、加盟団体も増えたことから CCNJ として国に働きかけることも必要ではないか。</li> <li>・ 次期 CCNJ 幹事団体への応募、創造都市政策セミナー、自治体サミットの共催実施等、活動・運営に力を尽くして参りたいと考えている。</li> <li>・ 今後、CCNJ がハブとなり国内だけでなく東アジア文化都市開催都市、ASEAN を始めとしたアジア諸国との文化創造都市ネットワークを構築していくことを期待。</li> <li>・ 開催する文化芸術事業において、その分野に興味がある人がパンフレットやホームページでの簡易な検索を通して全国からピンポイントで参加できるような PR の仕組みの構築を CCNJ に期待。</li> <li>・ テーマが類似している団体との連携を行い事業の充実化を図っていききたいと考えている。</li> <li>・ 連携を図るとともに、CCNJ の枠組みを通じて、本市の文化・芸術分野での認知度の向上や関連産業の企業や人材の本市への関心を高める取組を行う。</li> <li>・ 市内での創造都市政策セミナーの開催。</li> </ul>
市・町・村 (人口 10 万人未満)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域内での、連携に向けた共通意識の構築と事業展開の模索を進めるための取りまとめのアドバイスをいただきたい。</li> <li>・ 共通の地域課題 (伝統文化の後継者問題など) における連絡協議会・情報交換会などの開催。</li> <li>・ HP での掲載だけでなくダイレクトに自治体の事務局へ案内のメールを送っていただけるようなシステム。</li> <li>・ 興味のある自治体のイベントの主催者とコンタクトをとったり面談させてもらったりする際の仲介役。</li> <li>・ 創造都市同士の連携、掛け算によるイノベーション。</li> <li>・ CCNJ の枠組みを活用してセミナー等の PR を行いたい。</li> <li>・ 参加団体の連携事業・交流事業・情報交換。</li> <li>・ 広域的な取組の中核を担っていただきたい。</li> </ul>

(表5) 2020年に向けた文化プログラムの意向及びH28年度予定事業

自治体名	2020年に向けた文化プログラムの意向	左記の内、平成29年度に予定している事業等
埼玉県	<ul style="list-style-type: none"> <li>本県は、2020年のオリンピック・パラリンピックと2019年のラグビーワールドカップ大会の開催地でもあるので、この両大会の気運醸成と県内の文化芸術の振興を目的に文化プログラムを県内各地で展開していく予定である。</li> <li>現在、文化プログラムの具体的な方向性を定めるアクションプランを策定中である。既に、H28.11月に埼玉県版文化プログラムのスタートを告げる「キックオフイベント」、H28.12月に「1万人のゴールド・シアター2016」を開催した。</li> <li>今後、県は県内の特徴的な文化資源（盆栽、伝統芸能、蜷川レガシー等）などを活用し、文化プログラムを牽引する「リーディング事業」を実施していく予定である。</li> </ul>	<p>盆栽、生け花、伝統芸能など、埼玉にある「和」の文化を多角的に紹介するイベントを実施予定。</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">都道府県</p> <p>神奈川県</p>	<p>ラグビーワールドカップ2019及び東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を契機として、文化芸術を求めて人々が集う神奈川を目指し、市町村と連携して「オール神奈川」で神奈川の文化プログラムの推進に取り組む。認証制度について、積極的に活用し、情報発信していく。参画プログラムについては、平成29年1月1日現在、以下6件について認証されている。</p> <p>【平成28年度参画プログラム認定事業（文化オリンピアド）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>かながわこども民俗芸能フェスティバル〜れとろびーと〜 開催日：平成28年11月27日 概要：神奈川県内各地域で継承されている民俗芸能を広く県民に紹介することにより、伝統文化への理解を深め、伝統文化の継承、発展への機運を醸成するとともに、後継者育成を支援するため、民俗芸能に係るイベントを開催する。</li> <li>第44回相模人形芝居大会 開催日：平成29年2月19日 概要：国指定重要無形民俗文化財または県指定重要無形民俗文化財に指定されている相模人形芝居の5座が一堂に会し、日頃の鍛錬の成果を発表することにより、技術の向上、各座の交流等を目的とする。また、神奈川の伝統芸能を来場者が鑑賞することにより、伝統芸能の保存伝承と普及啓発を図る。</li> <li>かながわの地芝居2017 開催日：平成29年3月5日 概要：神奈川県内各地域で継承されている「地芝居」（農村歌舞伎）を継承する団体の活動の成果や地芝居の魅力青少年はじめ広く県民に紹介する。</li> <li>能楽ワークショップ 開催日：平成29年2月25日～3月4日 概要：平成13年にユネスコの第1回「人類の口承及び無形遺産の傑作の宣言」の中で無形世界遺産と認定された日本の伝統芸能「能・狂言」について、日頃鑑賞機会の少ない県内の小・中学生を対象にした体験ワークショップを実施することにより、次代を担う青少年に日本を代表する貴重な伝統文化に対する理解の促進を目的とする。</li> <li>21世紀の『上を向いて歩こう』『歌い、継ぐ』～永六輔さん追悼コンサート～ 開催日：平成29年1月20日、22日 概要：昭和の音楽界に偉大な足跡を残し、前回の東京オリンピック（1964年）の頃に大流行してから、今なお世界中で歌い継がれている「上を向いて歩こう（SUKIYAKI）」を作曲した、神奈川にゆかりのある中村八大氏と作詞した永六輔氏。彼らに焦点を当てたコンサートを上演することで、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の機運醸成を図るとともに、彼らの生み出した音楽や世界を「神奈川のレガシー」として引き継いでいくことを目的とする。</li> <li>神奈川県地劇ミュージカル公開コンベン事業 開催日：平成29年1月29日 概要：「地劇」（地元の伝説や民話などを題材に盛り込んだ、地域色豊かな劇）の公演を実施し、県民の文化芸術の「鑑賞機会」や「参加機会」の充実に繋げ、地域の歴史を学ぶ機会、地域への愛着、地域の活性化に繋がることを目的とする。</li> </ul> <p>*各地の歴史・伝統・文化に根差した地域発の演劇を意味する「地劇」は、神奈川県マグカル・テーブル座長を務めるマーケティングコンサルタントの西川りゅうじん氏による造語です。</p>	<p>左記参照</p>

自治体名	2020年に向けた文化プログラムの意向	左記の内、 平成29年度に予定している事業等
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">滋賀県</p>	<p>東京2020年参画プログラムについては、既に主体登録し随時アクションの認証を得ているところであり、今後も引き続き各種事業のアクション申請を行っていく。また、「滋賀ならではの」多様な文化芸術活動の発展等を旨として、(仮称)滋賀文化プログラムを策定する予定であり、市町などの各団体と連携を深め、効果的な事業展開や、文化芸術活動に関する取組の拡大と情報発信に努める。</p>	<p>別添のとおり(本県では、文化プログラムのイベントという位置づけではなく、全て文化プログラムとする予定である。)</p> <p>◎取組名 事業内容 "予算額 (千円)"</p> <p>◎アール・ブリュット魅力発信事業 ▷滋賀の福祉の歴史から育まれたアール・ブリュット作品は人と人をつなぐ力を持つ、滋賀の誇る美の一つである。新生美術館の整備およびオリパラ文化プログラムの展開に向けて、その魅力を発信するための事業を展開する。4,500</p> <p>◎アール・ブリュット振興事業 ▷アール・ブリュットに関する課題解決を図るための全国組織の運営を行い、会員向け情報発信や交流事業等を行う。2,710</p> <p>◎東京オリンピック・パラリンピック文化プログラム推進事業 ▷東京オリパラの開催効果を活かし、全国で展開される文化プログラムを本県文化の魅力を世界に向けて発信する機会と捉えるとともに、本県の文化力を高める取組を県民とともに進め、文化プログラム推進とともに本県の文化力向上に努める。10,908</p> <p>◎近江文化発見・発信事業 ▷司馬氏の作品などを通じて文化・歴史・風土等を感じる機会を創出し、地域への愛着を深めるための取組等を推進する。2,000</p> <p>◎地域の元気創造・暮らしアート事業(「美の滋賀」創造事業)▷美の資源を活用して地域を元気にする取組の支援や、それらの取組のネットワーク化・広域展開を図る取組を委託することにより、多彩な文化プログラムの展開および発信力のある新たなアートプロジェクトへの発展を加速させ、県全体で文化プログラムに取り込む機運を高める。11,973</p> <p>◎みんなで創る美術館プロジェクト▷新生美術館が地域や社会とつながりながら美の魅力を発信し、滋賀を元気にする「美の滋賀」の拠点としての役割を果たすことができるよう、整備過程の公開・共有、魅力発信や県内各地との連携を深めるプログラムを展開する。14,237</p> <p>◎美術館広報・マーケティング事業▷新生美術館のオープンをめざして、地域資源としての滋賀の多彩な美と、その拠点となる新生美術館の特徴や魅力を、首都圏・海外を含めて一体的に発信し、今後の集客や地域の活性化に努める。21,400</p>
<p>京都府</p>	<p>2020年に向けた取組をオール京都で推進するため、「京都文化力プロジェクト実行委員会」を設置し、平成28年10月に“創造する文化 京都から世界へ The Creative Power of Culture: From Kyoto to the World”をコンセプトメッセージとして「京都文化力プロジェクト 2016-2020」実施計画(総論)を策定(詳細は別添を参照)</p>	<p>京都文化力プロジェクト実行委員会のリーディング事業としてパフォーミングアーツに注目したイベントを実施予定</p>
<p>兵庫県</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県立の芸術文化施設(芸術文化センター、県立美術館、陶芸美術館等)で開催予定の公演、展覧会など</li> <li>・「ふれあいの祭典」: 県域レベルでの芸術文化祭(23分野/イベント)</li> <li>・「アート de 元気ネットワークひょうご」に参画の8芸術祭: 県内の多彩な芸術祭</li> <li>・伝統文化体験フェスティバル: 主に子どもを対象とした体験型イベント(年1回)</li> </ul>	

自治体名	2020年に向けた文化プログラムの意向	左記の内、平成29年度に予定している事業等	
都道府県	徳島県	徳島県では、「あわ文化4大モチーフ」、「あわ三大音楽」を中心に平成28年度より文化プログラムの取組を始めている。 具体的には、ベートーベン第九アジア初演100周年に向けた第九演奏会や阿波藍アート、徳島ジャズ、邦楽コンサートなどを計画・実施。 また、「東京2020 参画プログラム」「beyond2020 プログラム」については、これら県主催事業をはじめ、県内のさまざまなイベントを位置づけて（登録して）いく予定。	◎とくしま歓喜の歌プロジェクト（ベートーベン第九演奏会） ◎阿波藍アート2017、人形浄瑠璃街道・広域連携推進事業、 ◎ジャズが流れる街・徳島推進事業（徳島ジャズ） ◎徳島★ほう楽女子コンサート、TOKUSHIMA LEGENDS、 ◎あわ文化ギャラリー『MEGURU』
	香川県	現在のところ、実施を予定している具体的な取り組み等はありませんが、今後、国や他県の動向を注視し、検討していきたいと考えています。	該当なし。
	大分県	・大分県では、平成27年度に大分県文化プログラム検討会議を立ち上げ、国民文化祭を開催する平成30年、ラグビー・ワールドカップ大分開催の平成31年、そして東京オリンピック・パラリンピックの平成32年までの3年間を重点期間として、文化プログラムに取り組むこととしている。 ・具体的には、国民文化祭に併せたアートイベントと地域資源を併せて展開するカルチャー・ツーリズムの造成、活用を通じ、インバウンド観光客への対応も含め、県内各地で様々な取組を展開する予定。	◎国民文化祭イベント▷国民文化祭2018に向けたイベント ◎in BEPPU▷別府市を舞台とした個展形式の芸術祭
政令市 中核市	札幌市	東京オリンピック・パラリンピック競技大会（以下オリンピック）の開催に際しては、毎年開催しているパシフィック・ミュージック・フェスティバル（PMF）オーケストラの東京公演などにおいて、文化プログラムとしての特別事業の実施を検討。 札幌国際芸術祭（SIAF）についても、今後の東京オリンピック開催及び札幌オリンピック招致も見据えながら、日本の文化や都市の魅力を世界に発信することに寄与し、交流人口の増加に繋がるよう、3年毎に継続的に開催しながら長期的な発展を目指す。	PMFとSIAF2017については、29年度文化芸術振興費補助金・文化芸術創造活用プラットフォーム形成事業の申請にあたって、東京2020参画プログラム、beyond2020プログラムを申請予定。 ◎「PMF」世界中からオーディションで選ばれた若手音楽家が、芸術監督ワレリー・ゲルギエフをはじめとする世界的な音楽家から指導を受ける教育事業や、音楽普及事業を実施する。 ◎「SIAF2017」「芸術祭ってなんだ？」をテーマに、大友良英氏（音楽家）をゲストディレクターとして、多様な文化芸術分野と複合した先進的な現代アートを展開する札幌ならではの国際芸術祭を実施する。
	八戸市	市主催のアートプロジェクトについて、「東京2020 応援プログラム」（もしくはbeyond2020プログラム）に申請予定（平成29年度）。	「南郷アートプロジェクト」「八戸工場大学」「八戸立体絵巻プロジェクト」の実施に向けて、文化庁の支援事業（平成29年度文化芸術創造活用プラットフォーム形成事業）に申請中。
	仙台市	どのような分野や内容等がふさわしいかを幅広く検討するため、仙台市及び（公財）仙台市市民文化事業団との共催事業として、平成29年1月～3月に市内文化団体等を対象に企画提案を募集する。平成29年5月に提出された企画提案の中から数件程度選定し、平成29年度以降事業を実施予定。	平成29年度予算の範囲内で実施予定。
	さいたま市	市内に「2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会さいたま市推進本部」を、さらに官民一体となった協働体制として「さいたま市支援会議」や取組を推進するための各分野のプロジェクトチームを立ち上げ、その中で文化プログラムについて検討を進めている。 現在は、文化プログラムを実施するためのアクションプランの策定を計画中であるため、開催都市として機運醸成に資する事業を実施したいと考えていますが、具体的な事業内容等については未定。	開催都市のひとつとして、埼玉県や県内他開催自治体と連携を進めていく。
	横浜市	既に一部の事業においては、東京2020参画プログラムの公認プログラムとして認証を得ながら事業を推進。 ヨコハマトリエンナーレ、ヨコハマ・パラトリエンナーレ、横浜芸術アクション事業（Dance Dance Dance @ YOKOHAMA、横浜音祭り）、をはじめとした各種事業に取り組み、2020年に向け今後も文化プログラムを推進。	◎ヨコハマトリエンナーレ2017 ◎ヨコハマ・パラトリエンナーレ2017
	新潟市	新潟市文化創造交流都市ビジョンの基本方針にのっとり、全市一体となって文化プログラムにとりくむ。（別紙あり WEB 参照）	NIDF（Niigata International Dance Festival）のほか、ラ・フォル・ジュルネ新潟、アート・ミックス・ジャパン、がたふえす、光の共演など
	金沢市	2016年11月に「金沢市文化プログラム推進本部」を設置し、2016年3月に策定した「文化創生新戦略2020」の推進を図っている。 文化創生新戦略では、4つの基本方針（①伝統工芸の充実、②現代アートの発信強化、③文化芸術を担う人材の育成、④文化芸術の世界発信）に基づき、東アジア文化都市事業や文化プログラムを実施することで、文化都市金沢の認知度向上や文化の力での活性化を図ることを目的としている。	◎東アジア文化都市2018金沢（2018年1月～） ◎金沢21世紀工芸祭（2017年10～11月）等、本市の文化発信、文化芸術に関する人材育成等の事業において、文化プログラムの要件に合致する事業について、「beyond2020」等の認証を受ける予定

自治体名	2020年に向けた文化プログラムの意向	左記の内、平成29年度に予定している事業等	
政令市 中核市	静岡市	平成28年度より「静岡市総合戦略」の重点プロジェクトのひとつとして実施している「まちは劇場プロジェクト推進事業」(※)を、文化プログラムにおける本市のコンテンツのひとつとして位置付けていく。 「まちは劇場プロジェクト推進事業」として、今年度は下記3つの事業を新規事業として実施。1. パフォーミングアーツ事業 2. 東静岡アートパーク事業 3. オーケストラ事業 ※「まちは劇場プロジェクト推進事業」＝本市に根付いた大道芸や演劇、音楽など文化芸術の力を活用して、交流人口を増やし、地域の活性化を目指す事業。	上記(4)について、事業規模を拡大して実施する予定。(文化プログラムのイベントとして位置付けるかは未定)
	浜松市	ユネスコ創造都市ネットワーク<音楽分野>加盟都市として、本市で取り組む文化事業については国内はもとより海外へも発信しており、多くの事業を東京2020参画プログラムとして位置付けることができると想定している。また、「beyond2020」については、市及び文化振興財団で行う助成事業に採択された事業を軸に、本市で文化的活動を行っている民間団体の事業を幅広く認証できるよう尽力していく。 本自治体文化事業実施内容予定:浜松国際ピアノコンクール(平成30年度)、「静岡国際オペラコンクール」(平成29年度)、「サウンドデザインフェスティバル」(平成29年度)、浜松版アーツカウンシル(平成29年度)	◎平成29年度実施事業「サウンドデザインフェスティバル」▷「音」の可能性に注目した内外の事例・取組み 予算53,754千円 ※東京2020参画プログラムに申請するかは不明
	京都市	・京都文化カプロジェクト2016-2020(2020年の東京オリンピック・パラリンピックの開催を契機として、オール京都で開催する文化の祭典) ・京都文化芸術プログラム2020+(2020年の東京オリンピック・パラリンピック等の開催に向けて、京都市が特に強力で推進すべき具体的な文化芸術関連事業を取りまとめたプログラム)	◎オール京都で実施している京都文化カプロジェクト2016-2020において、リーディング事業、ワークショップ、推進フォーラム等を行っていく。予算25,000千円
	大阪市	大阪市では「第2次大阪市文化振興計画」を策定し、計画を推進するための重点的な取組みとして「2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた取組み」を掲げている。	計画に基づく新たな取組として、大阪の文化資源である伝統芸能を振興するとともに、観光資源として活用するためのコンテンツ創造や地域の魅力を発信する事業を実施予定
	堺市	2020年に向けての取組みとして、「東京2020参画プログラム」の応援プログラムを実施していく予定。現在検討中であるが、本市が歴史文化を活用したまちづくりを進めていることをふまえ、地域に根ざした堺固有の文化芸術資源を活用し、都市魅力を国内外に発信する文化プログラムを実施予定。	
	神戸市	5カ年の基本計画である2020ビジョン(平成28年4月～平成33年3月)が今年度からスタート。この2020ビジョンは、急激な人口減少、超高齢化などの社会経済情勢を踏まえ、2020年に向けて神戸が新しいステージに踏み出し、安定した成長軌道に載せるために、「若者に選ばれるまち+誰もが活躍するまち」というテーマを設定し、その実現のための具体的な取組みを示している。このテーマのうち、「若者に選ばれるまち」に焦点を絞り、10代・20代の若年層に魅力や可能性を感じてもらえるための新たな文化の醸成のため、音楽・映画・IT等を複合したクロスメディアイベント「078」(ゼロ・ナナ・ハチ)を企画、継続開催し、2020ビジョンの推進に寄与していくとともに、2020ビジョンの進化を市民に「見える化」していきたいと考えている。	◎「078」(ゼロ・ナナ・ハチ)▷概要:音楽・映画・IT等を複合したクロスメディアイベント 予算3,350万円 集客規模5万人
	姫路市	現在、2020年東京オリンピック・パラリンピックを推進エンジンとした姫路文化プログラムを取りまとめている。国際化、人材育成、裾野の拡大等を進め、本市の文化力向上を目指している。国等、全国的な文化関係の取組についても、積極的に参加していきたいと考えている。	調整中
	奈良市	文化によるまちづくりを市の主な政策として進めている本市としては、2020年に向けて東京2020参画プログラムに当然参加すべきと考えている。また、国との連携を図る意味でも、平成29年度文化芸術創造活用プラットフォーム形成事業に応募し、市の文化施設で開催する主な事業を、東京2020応援プログラムとして申請し、関わっていく予定である。また、奈良市は2016年東アジア文化都市として、中国の寧波市、韓国の済州特別自治道とともに、文化芸術を通しての交流を深めてきた。2017年以降も、この経験を活かすとともに、2020年に向けた文化プログラムの充実を目指し、現代美術展や現代演劇による芸術祭を開催していきたいと考えている。	◎「ならまち」での現代アート展開催 ◎中・高校生による創作演劇上演 現段階では、2017年度の予算措置を調整しているとともに、文化庁の補助金を申請している。 ◎「東京2020応援プログラム申請予定事業」 ①第7回万葉オペラ・ラボ公演「遣唐使物語」・万葉オペララボ講座まちなか万葉劇場 ②入江泰吉記念写真賞・ならPHOTO CONTEST ③学園前アートフェスタ2017 ④奈良市美術館文化振興事業 ⑤奈良市杉岡華道書道美術館文化振興事業 ⑥入江泰吉記念奈良市写真美術館文化振興事業 ⑦入江泰吉記念奈良市写真美術館広報展示 ⑧ピアノと能の饗演『重衡』 ⑨ならシネマテーク ⑩なら市民フェスティバル (別紙あり WEB参照)
岡山市	検討中		

自治体名	2020年に向けた文化プログラムの意向	左記の内、 平成29年度に予定している事業等	
政令市 中核市	広島市	1985年から隔年で開催し世界四大アニメーション映画祭の一つとされる「広島国際アニメーションフェスティバル」や、著名な演奏家等によるワークショップとその成果発表を行う「ひろしまユース文化芸術祭」などについて取り組むことを予定している。	◎「ひろしまユース文化芸術祭」の実施を予定 詳細は検討中。
	高松市	文化プログラムを推進することは、開催地の東京のみならず、本市においても多くの市民の方々が、オリンピックに関わることができるほか、本市の文化芸術の振興にもつながることから、今後、国や大会組織委員会等の考え方や方向性を注視しつつ、文化団体やアーティスト等とも連携して準備を進めたい。	未定
	松山市	情報収集段階	
	北九州市	東京2020 参画プログラム beyond2020 プログラムとも実施の方向で現在検討中	現在検討中
	熊本市	・beyond2020 プログラムの認証組織に手をあげる。 ・東京キャラバンについて熊本県とも連携し協力していきたい。(プログラム内容については未定)	未定
	大分市	2018年の「第33回国民文化祭・おおいた2018」、「第18回全国障害者芸術・文化祭おおいた大会」、2019年の「ラグビー・ワールドカップ」の大分開催を、さらなる文化芸術振興の機運を高める絶好の機会と捉え、2020年に向け、文化プログラムの実施についての検討を進めたいと考えている。	未定
市区 10万人以上	山形市	検討中	検討中
	鶴岡市	日本ならではの食文化の発信と、その再認識と継承・発展・国際交流を進めるため、「beyond2020プログラム」に積極的に参加していきたい。	◎庄内酒まつり▷日本酒の飲み比べや蔵人のお話しを通じた日本酒文化発信イベント 予算額：500万円、集客規模5,000人 ◎つるおかふうどEXPO▷鶴岡の食文化紹介イベント 予算額：未定、集客規模30,000人 ◎食文化映画祭▷食文化に関する映画イベント 予算額：250万円、集客規模1,000人
	いわき市	東京都及びアーツカウンシル東京が実施する「東京キャラバン」との連携等により文化プログラムに向けた各種事業のブラッシュアップを図りつつ、市内文化施設及び市内活動団体、市内で活躍するアーティストなどと連携し、市内各地域の多様な文化や地域資源をアートの力で磨き上げ、その魅力を体験・共感できる場づくりとなるような取組みを行う。	◎まちなかカルチャーフェスティバル「(仮称)常磐アートライン」▷開催に係る経費の一部について予算要求中
	取手市	・現在までにアートNPO等との連携のもと取り組んできた市域内のアート資源を定量/定性調査し可視化を行うとともに、当市内に点在する前述資源を面的につなぐ、有機的なアートプラットフォーム構築/市域回遊型アートセンターの設立を目指す。 ・単なる定住人口増ではなく、地域における芸術文化の日常化を目指す「創造性を発揮しながら生きる定住者の受入促進」を当市の芸術文化事業の取り組みにかかるとして位置づけたい。	
	草加市	平成元年から毎年開催されている「国際ハーブフェスティバル」を、平成32年度の東京オリンピック・パラリンピック競技大会開催に向け、さらに充実したものとしていく。 平成29年度から平成33年度までの実施期間で「国際ハーブフェスティバル実施計画」を策定し、外国人観光客誘致のための素地醸成・文化の国際発信を図る。(平成29年度文化芸術振興費補助金(文化芸術創造活用プラットフォーム形成事業)申請中)	◎国際ハーブフェスティバル2017―草加市―▷1989年から毎年開催されている、国内外から著名なハーピストが集まる国内最大級のハーブ演奏会。予算規模：約1,300万円、会場：草加市文化会館ホール(約1,200人収容)
	富士見市	具体的な取組みとして決定している催しはありませんが、姉妹都市であるシャバツ市のあるセルビア共和国のスポーツチームへの練習場所の提供や地域住民との交流等を検討するなど、オリンピック開催を通じた市民への国際文化交流を図るとともに、富士見市を市内外にアピールできるような催しを実施できるよう考えている。	
	松戸市	豊島区「F/T(フェスティバル/トーキョー)2017」共催イベントの実施、海外都市とのアーティスト・イン・レジデンスの交換プログラムの実施などを予定。	

自治体名	2020年に向けた文化プログラムの意向	左記の内、 平成29年度に予定している事業等
<p>豊島区</p>	<p>独自の「国際アート・カルチャー都市構想」(※)を基軸にまちづくりを展開していくことで、世界中の人々を魅了し、持続発展する都市の実現を目指している。東アジア文化都市2019年開催都市へ立候補するとともに、東京オリンピック・パラリンピックが開催される2020年を中間目標とし、池袋駅周辺の都市再生事業の進展などを踏まえつつ、3つの戦略(文化、空間、国際)を展開していく予定である。</p> <p>(※)「国際アート・カルチャー都市構想」→これまで豊島区が進めてきた文化創造都市づくり、安全・安心創造都市づくりを統合し、さらに発展させていくための新たなまちづくりの方向性を示す構想。</p> <p>それを踏まえた上で、下記プログラムを実施していく。(予定も含む)</p> <p>① 東京芸術祭(2016より実施)・・・東京都、アーツカウンシル東京、東京芸術劇場、公益財団法人としま未来文化財団等が連携し「組織委員会」を立ち上げ、「第1回東京芸術祭」を、9/25～12/18の間、実施した。4部門構成(フェスティバル/トーキョー16、芸劇オータムセレクション、としま国際アート・カルチャー都市発信プログラム、アジア舞台芸術人材育成部門)で、会場には、オープニングセレモニーでの南池袋公園をはじめとする区有施設や、豊島区が実行委員会形式で実施している国際舞台芸術祭「フェスティバル/トーキョー」など、様々な区内文化資源を活用して開催した。今後も継続実施予定。</p> <p>② としま国際アート・カルチャーフォーラム…国際アート・カルチャー特命大使(豊島区が国際アート・カルチャー構想を実現する推進力としてに特命大使として任命した区民約1,000名)に対して、オリ・パラに向けた文化政策を視野に入れた公演、講義を月1回程度開催し、国際アート・カルチャー都市推進についてより深く知っていただく。</p> <p>③ 旧鈴木信太郎邸の保存・活用…フランス文学者故鈴木信太郎氏の旧宅を区指定文化財として建物の保存を図りつつ、地域の貴重な文化資源として広く区民に公開し、新たな文化発信を行う。平成30年2月の一般公開に向け、準備中である。</p> <p>④ (仮称)豊島区新ホールの整備…庁舎跡地活用として民間事業者が国際アート・カルチャー都市のシンボルとなる新ホールを整備し、区が購入する。2019年度の稼働後、オリ・パラ文化プログラムの会場として活用する。</p>	<p>① 東京芸術祭▷規模は今年度集客数集約中)</p> <p>② としま国際アート・カルチャーフォーラム▷29年度予算 6,500千円</p> <p>③ 旧鈴木信太郎邸の保存・活用▷29年度予算 137,010千円</p> <p>④ (仮称)豊島区新ホールの整備</p>
<p>10万人以上</p> <p>小田原市</p>	<p>健全者、障がい者が共に参加できる文化事業を実施していく</p>	<p>◎障がい者、健全者ダンスワークショップ 健全者、障がい者(小学生から中高生対象)が共に参加できるダンスワークショップ▷500千円</p>
<p>三条市</p>	<p>今後、検討予定。</p>	
<p>高岡市</p>	<p>文化芸術国実現に向けた文化庁が取り組む文化プログラムの枠組みを活用し、県や民間と連携して積極的に取り組んでいきたい。</p>	<p>◎国際工芸サミット(仮称)▷平成29年度は富山県を会場とし、工芸の魅力を世界に発信する広域的な催しを開催する。規模(予算額)等は未定。</p>
<p>三島市</p>	<p>平成29年度に構想立案、推進体制の検討等を行ない、平成30年度から順次展開していく考え。</p>	
<p>長浜市</p>	<p>平成28年度から「文化芸術長浜コース会議」を創設し、若者中心のネットワークの構築や研修・交流、東京五輪文化プログラムに向けた人材育成、企画・協議など地道な活動を行っている。</p> <p>文化芸術長浜コース会議と長浜市が協働で実施する若者による総合芸術祭「Next2017～Nagahama ex-Theater～」は、「東京2020参画プログラム」の本格実施に向けたプロトタイプ事業として取り組みを開始。</p>	<p>◎長浜コース文化芸術祭▷40歳以下の若手アーティストによる団体「文化芸術長浜コース会議と長浜市が協働で実施する若者による総合芸術祭、2020年の本格実施に向けたプロトタイプ事業 予算200万円・集客規模1,000人</p>
<p>草津市</p>	<p>来年度に文化振興条例の制定、文化振興計画の策定を行う予定であり、その中で検討してまいりたいと考えています。</p>	<p>特になし</p>
<p>尾道市</p>	<p>昨年度から、文化庁の補助事業をもって「現代アートの創造発信事業」に取り組んでおり、次年度には3か年の集大成ともなる(仮称)芸術祭を計画している。その事業をより展開する枠組みとして検討していきたい。</p>	<p>なし</p>
<p>山口市</p>	<p>本市が有するメディア・テクノロジーを活用した新しい芸術表現の追求や、創造性、感性豊かな人材育成支援などの活動を展開している山口情報芸術センター[YCAM]を拠点施設として、文化芸術が有する創造性を教育、福祉、産業、観光、環境など様々な分野に生かしたまちづくりを行う「創造文化都市」に向けた取組みを進める中で、2020年を契機とした文化プログラムにも取り組んでいきたい。</p>	<p>未定</p>
<p>岩国市</p>	<p>平成28年度、文化庁補助事業を受け、世界でも類をみない木造橋である「錦帯橋」(国指定名勝)周辺において、「錦帯橋芸術祭」を開催。</p> <p>「錦帯橋芸術祭」では、「錦帯橋の篝火(かがり)」をはじめ、錦帯橋の魅力を発信するため様々な事業を実施し、今後は、その価値をさらに高めるため、伝統的なものと現代的なもの、日本的なものや西洋的なもののコラボレーションを進めるとともに、新しい表現や作品の創造につながる取り組みを実施していきたいと考えている。</p>	<p>◎2017年第2回錦帯橋芸術祭▷平成29年11月10～12日開催予定</p>

自治体名	2020年に向けた文化プログラムの意向	左記の内、 平成29年度に予定している事業等	
市区 10万人以上	別府市	市内のNPO法人と協力し、別府でしか体験することができない大型のアートプロジェクト「in Beppu」を2021年まで開催予定。個展形式で毎年アーティストを1組(H28～)選抜し、市内にて実施する。また、別府にて開催される文化イベントや地域情報を多言語で発信する「旅手帳 beppuWEB」版を作成する	「in Beppu」を開催予定。個展形式で毎年アーティストを1組(H28～)を選抜し、市内にて実施する。
市町村 10万人以下	美瑛町	現時点では実施に向けた取組や検討を行っていない。	
	剣淵町	スポーツ合宿誘致を進めているが、文化プログラムの推進に関しては取り組めていない。	
	多賀城市	実施したいと考えているが、内容については未定。	◎「東大寺展」(平成30年春)に関連するイベントとして、アートイベント等の文化プログラムの実施を予定。▷平成29年度中の交流人口は、全体で10,000人を目標としている。
	中之条町	中之条ビエンナーレを通じて、海外交流プログラムに取り組み、海外の観光客の流入を推進する。	◎中之条ビエンナーレ2017▷2017年9月9日(土) - 10月9日(月・祝)の31日間 9:30 - 17:00 無休 入場料バスポート1,000円(前売り800円) 高校生以下無料 会場数 町内6エリア約45会場 作家数約130組を予定。予算額40,000千円 集客数20,000人
	十日町市	・毎年春夏秋に、現代アートを活用した企画展やアートイベント等を開催。 ・平成30年度、33年度に現代アートの国際展「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ」の開催。 ・雪国や豪雪をキーワードにした現代アートの冬季芸術祭「SNOWART」を毎年開催	◎春夏秋に、現代アートを活用した企画展やアートイベント等を開催。 ◎雪国や豪雪をキーワードにした現代アートの冬季芸術祭「SNOWART」を開催。
	氷見市	何らかの形で文化プログラムの推進に取り組みたいと考えているが、検討中である。	
	南砺市	・市内全域の獅子舞競演会の開催 ・シアターオリンピックスの開催支援	
	可児市	平成28年4月1日、文化芸術を通じてすべての市民が地域社会でいきいきと暮らすことのできるまちづくりを目指し「可児市文化創造センター条例」を施行した。この条例のスタートアップ事業として、4年をかけて英国ウエスト・ヨークシャー・プレイハウスと音楽劇を共同制作する。	平成28年度で選定した音楽劇の劇作家が、各地取材しながら台本を完成させる。
	守山市	・現在実施している市内一円で同日開催の音楽イベント「ルシオール・アート・キッズフェスティバル」(毎年春開催)の一層の充実を図る ・トルコ共和国との東京オリンピック・パラリンピックに向けたホストタウン登録を締結したことから、トルコとの文化交流事業	◎トルコの音楽団を招いての演奏会▷予算は旅費、滞在費で50万から100万円・集客は100名程度の小音楽隊の招への予定(未定)
	甲賀市	魅力ある文化プログラムを推進し、国内外の人々を日本文化で魅了するという点で、本市の文化の魅力を国内外に発信していく取り組みが求められますが、具体的な関わり方の検討にまでは現状至っていない。 市単独での文化プログラム展開は効率性や効果、経費等において得策でないと考えますので、県が主体となり本件に関わる方針や目標を示されれば、本市としましてもどのような関わり方や事業立案が望ましいかを具体的に検討し、判断できると考えている。	該当事業なし。
	豊岡市	個性的な文化芸術のプログラムを通して豊岡市の魅力を発信する取り組み、「Toyooka Art Season(豊岡アートシーズン)」を継続して開催します。 2016年は、7～11月の会期で、ダンスや演劇の公演、クラシックのコンサート、展覧会など全34のプログラムを行いました。2017年は会期も拡大し、舞台芸術を中心にさらに多様なプログラムを実施する予定です。	◎Toyooka Art Season 2017(豊岡アートシーズン2017)▷夏・冬の2会期で、舞台芸術作品の滞在制作と公演、クラシック音楽祭、演劇や子ども歌舞伎の公演などを実施します。
	篠山市	食と器の国際ビエンナーレ 丹波焼陶器まつり	◎食と器の国際ビエンナーレ ◎丹波焼陶器まつり
	真庭市	beyond2020プログラムの趣旨、条件などが合えば、取組みたい。	現在のところ決まっていない。
多良木町	現在、担当部署において、検討している状況である。	◎球磨拳世界大会▷球磨地域のみならず6県みのジャンケン大会 予算300千円 ◎焼酎を愉しむタベ▷地域ブランドを冠する球磨焼酎イベント予算1,000千円	
竹田市	和太鼓集団TAO(タオ)を基軸としたインバウンド対策・定住人口の増を目指して事業を展開していく。「DRUM TAO 芸術村&学院構想」別に、平成30年度国民文化祭(大分県大会)に向けて、事業構築中。	市が主体となって実施する事業は未定。(TAOについては、世界23か国、観客動員数700万人の実績により、29年度も舞台講演を予定。)	

該当の設定に回答のあった自治体のみ記載

※使用した調査票についてはWEB (<http://ccn-j.net/activity/event.html>) に掲載